

## ミヨシグループ MIYOSHI GROUP & CO.,LTD.

ミヨシグループは花、野菜の種苗業を通じて常に生産者、消費者にとって新しい品種を生み出し、驚きと感動を提供する企業グループとしてグローバルに展開しています。

- ✳ 常に先掛けて行動する「先駆者」であり続け
- ✳ 常に現場に即した「お客様第一主義」の精神で
- ✳ 「種苗業」を通じて園芸業界へ貢献するを企業理念としております。

### ～ジャパン・フラワー・オブ・ザ・イヤ－2014受賞～

ジャパンフラワーセレクションにおいてジャパン・フラワー・オブ・ザ・イヤ－2014を受賞しました。

切り花部門で、株式会社ミヨシが出品した「アネモネ F1 モナリザ ワインホワイト」が、ガーデニング部門で株式会社エム・アンド・ビー・フローラ社が出品した「ベゴニア ワッパー レッドブロンズリーフ」がそれぞれ受賞いたしました。



**注目度向上！**  
**アネモネ F1モナリザ ワインホワイト**

これまで様々な品種を世界中から導入し日本の栽培や日本人の嗜好に合致する品種を追い求めてまいりましたが、それらの条件を満たす品種の発見には至りませんでした。そのような中、2012年に導入した品種群の中から今回ジャパンフラワーセレクションで入賞した「モナリザ ワインホワイト」を見つけ出すことに成功しました。この品種は既存の品種と比較して、大輪・新規性のある花色・花持ちの良さといった特徴を兼ね揃えていました。この特性はこれまでのアネモネのイメージを一新する特性であり、消費者の皆様にあネモネの魅力を再認識して頂くことが出来ました。この品種の登場によりアネモネという花材をあらためて評価する方々が増え、注目度が向上しています。

### ～2020年夏のオリンピック商材として期待 ベゴニア ワッパー レッドブロンズリーフ～



エム・アンド・ビー・フローラでは「猛暑でも楽しめる花」をコンセプトに夏商材の商品導入を行っています。

非常に強健で梅雨の期間中や真夏の屋外でも大きく生長し、大輪の花を咲かせるベゴニアです。

春から霜が降りるまで3シーズン(春、夏、秋)楽しめます。通常のベゴニア センパーフローレンスと比べ5倍程度の草丈まで生長し、1花の大きさも約3倍となり迫力があります。ワッパーシリーズは、株が大きく生長する分、少ない本数でも広い面積をカバーすることができるため、ランドスケープ用途としては最適な品種です。2020年の夏のオリンピック商材としても活躍を期待しています。

### ～MPS認証への取り組みは 社員のモラルアップにつながりました～

MPSに取り組み、まず私たちが考えたのが農薬の問題です。ヨーロッパですでに使われていない毒性の高い農薬を、日本では未だに使っている現状に、これではいけないとそのような農薬の使用を一切やめました。MPS認証を取得するためには定められた環境基準をクリアする必要があるため、私たちもこのように出来ることから積極的に開始しました。農薬・肥料・燃料等の使用について記録しデータ分析を行うことで、やるべきことが明確になり自ずと環境への意識が高まりました。

始めたばかりの頃は忘れないように記録するのが少し大変でしたが、いつの間にかそれも習慣になりましたし、社員がそれぞれルールを作って取り組むようになったことで、今では各自のモラルアップにつながったと確信しています。

### ～ミヨシグループとしてのMPSに対する 更なる取り組み～

- 1) 忌避剤・防草シート・防虫ネット等の積極的使用
- 2) グループ企業全体での生産資材の確認
- 3) グループ全体での使用農薬情報の共有化及び使用方針決定
- 4) 冬季利用ハウスの集約によるエネルギー使用量の減少

今後も、現状に満足せず、更なる改善を日々意識して「環境負荷低減」に取り組んで参りたいと考えています。

## ㈱ミヨシ 八ヶ岳研究開発センター

### ～八ヶ岳からオンリーワン商品の開発～

本センターは山梨県北杜市小淵沢町に位置し標高811mの高冷地で八ヶ岳の南麓になります。1973年「八ヶ岳農場メルクロン研究所」として開設し、その後、名称を「八ヶ岳研究開発センター」として現在に至ります。主に本センターは育種開発、培養及び生産母株チームの三部門から成り立っております。弊社において最も歴史のある事業所が、この研究農場であり、開設当初より企業理念である「オンリーワン」商品の開発を積極的に行ってまいりました。その開発品目は多岐に及び、アスター・カスミソウ・スターチス・ダリア・デルフィニウム・ユーストマ・カーネーション等の切り花品目を始め、パンジー・ビンカ・ペチュニア等の鉢物・花壇向け品目、さらには、イチゴなどの栄養野菜品目等、ミヨシグループ各社の品目の開発をしております。



研究開発部 集合写真

また、弊社のアイデンティティー (Identity) でもある組織培養技術の研究開発・植物病理研究も本センターにて行われております。生産母株チームにおいてはカスミソウ、テマリソウ等を中心に栄養系品目のクリーンな親株の増殖を行なっています。



ITシート



防草シート

### 〈フィールドトライアル〉

毎年7月上旬に、切り花品目を中心とした展示会を営業・育苗センターで開催しています。トライアルハウス二棟(合計約270坪)を使い、ユーストマを中心にアスター・カスミソウ・スターチス・デルフィニウム等の育種開発品目や、テマリソウ、マトリカリア、ケイトウ、ヒマワリ等の栽培展示を行なっています。生育特性の違う花々をすべて7月上旬という決まった期日までに開花させなければならず、毎年、栽培担当者は苦勞をしています。今年度は2日間で1,000人以上の方々が来場して下さいました。また、MPSの津田さんにも来ていただきMPSについてのブースも出して頂きました。秋～冬にかけては、このトライアルハウスを利用し、土壌試験、電照試験、資材試験等も行なっています。



### 〈MPSへの参加〉

2009年1月より参加し、同年3月にMPS-ABC参加者に認められました。農業関係ですが、本センター内の土壌の消毒は以前からピクリン、バスアミド等の土壌消毒剤ではなく、蒸気消毒機を用い土壌消毒を行なっています。害虫防除の為に、ほとんどのハウスに0.3～1mmの防虫ネットが張ってあります。また農業使用を少しでも減らす為にITシート(飛翔害虫誘引捕殺粘着シート)や次亜塩素酸水の使用等も現在行なっています。ハウス間に防草シートを張ることにより除草剤の散布量も減らしています。エネルギー関係では、育種開発の過程で、より低温でも生育が旺盛な系統を選抜するように心がけています。今後もさらなる工夫を行なっていく、減農薬・減肥料・省エネルギーを目指していきます。